



シルバーだより

No. 306

平成 27 年 12 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— あれ、もう十二月 —

名誉学長 原田 治子

戦後 70 年の節目の年も間もなく終わろうとしています。世界に目をやれば、宗教や民族の対立、主義主張の違い、利害や憎悪による紛争は絶えることなく続いています。愚かな争いがどれほど多くの生命を奪い、悲惨な生活を強いていることか。心が痛みます。

では、私たちの国日本はどうでしょうか。政治・経済への懸念や度重なる災害・事故・事件などに、怒りや悲しみや落胆することは多々あるけれど、現時点では「平和な国」と言えるのではないのでしょうか。

私たちが荒川シルバー大学生として学び、よき友を得て心豊かに暮せるのも平和であるからでしょう。

永久に武器とは無縁の国でありますように。

カレンダーを破ると残りはたった一枚。

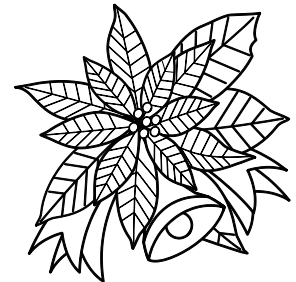
「あれ、もう 12 月」と、何となく気ぜわしくなると同時に様々な思いが去来します。物理的な時間の経過

は万人に等しいけれど、各々の環境や置かれた状況によって感じ方は異なるでしょう。幸せいっぱいであつという間に過ぎた。病いや悲しみで長くつらい日々だった。今が一番幸せなので時計の針が止まってもらいたかった。老々介護に明け暮れて先のことが不安な毎日を過ごした。平々凡々と暮してその日その日を送った、等々。みなさんにとってはどんな年だったのでしょうか。

間もなく一年の終わりを告げる除夜の鐘。

人間の心身を煩わせる妄念（貪・瞋・痴・慢・疑…）を除去するといわれている百八の鐘の音にみなさんは何を託すのでしょうか。私は「人間が幸福であるかどうかは、人生の最後をみるまでわからない。老々家族の中で、負いきれないほどの重荷を負っているけれど、落ち込むことなく、本当のことが聴ける耳、本当のことが観られる目を育てながら、ていねいに歩みをすすめたい」と。

やがて来る夕暮れを思い悩んでも意味はありません。確かなのは「今生きている」ということです。どんなに小さくてもいい。自分にも他者にも幸せの種を蒔き続けていきましょう。



《 研修旅行に参加して 》

去る10月28日より、2泊3日を要し、福島県岳温泉へ、バス2台、参加者総勢70名。錦秋の裏磐梯を満喫しつつ、今回は、東日本大震災の震災学習と福島県の観光支援を目的とした意義ある企画でした。多くの方々が、テレビや新聞のニュースでしか知り得なかった震災当時、一瞬にして家族や家一切を失われた体験者のお話や資料等に触れ、改めて震災の恐ろしさ、悲惨さを目の当たりにし、何とも忍び難い思いでした。

東北でも特に福島は放射能汚染の影響で、他の地域より復興が5年も遅れているそうです。参加された方、皆さんも同じ思いで、観光支援（買い物、寄付等）をしておりました。一日も早く復興が進むことを祈るばかりです。



さて、話は前後しますが、二晩共に宴会は、ぶっつけ本番の歌や踊りがあり、原田治子名誉学長はじめ、先生方も一緒になって盛り上がり協力してくれました。特に望月公子学長の、飛び入りの即興の踊りには、満場が大爆笑でした。

私たちが普段なかなか見られない、先生方、役員さん達のウラ？の顔に触れ、距離感がなくなり心より嬉しく思いました。私は初めての参加でしたが、先輩達のあたたかいお心に触れ、一段と交流を深められ、荒川シルバー大学ならではの有意義な旅でした。最後になりましたが、実行委員の方々の陰の労力に感謝して紙面を終わります。

（ 5班 丸橋 浩子 ）

《 学園祭を終えて 》

パステル・絵の具画講師 永井 克己

年度始めの5月から学園祭に向けて、一人ひとりの個性を生かした作品作りに取り組んできました。テーマや技法は、各自で決めることにしたので、風景画・人物画・静物画・パステル画・水彩画など、多岐にわたり個性的な作品が出来上がりました。

パステルは、オイルパステル、ソフトパステル、ハードパステル、パステル鉛筆など色々な種類があります。生徒さんは、その特性を生かしながら工夫して、自分らしい作品作りが出来たと思います。

10月は、台面に飾る立体作品を軽量粘土で作りました。軽量粘土は、成形や彩色が自由に出来るので、草花やカラフルな置物など楽しみながら制作が出来たようです。

今後は、この学園祭の経験を基に、個性豊かで魅力的な講座を目指したいと思っています。

《 自分史教室の講師となって 》

自分史教室講師 野口 和歌子

自分史教室前講師であり現名誉学長である原田治子先生は、今年6月発行の記念すべき『シルバーだより 300号』の巻頭言で、シルバー大学は質の向上によって「わが誇れるシルバー大学」になるのであり、そのためには次の3つの要素が不可欠であるとおっしゃっている。

- ①みんなが学校の運営に関心を持ち、建設的な意見を寄せること。
- ②自分さえよければではなく、共に学ぶ人たちのいたみや悲しみに寄り添い、助け合うこと。
- ③みんなの力で「心あたたまる人間風景そのもの」の学校を育てていくこと。

本年度原田先生より担当講師を任せられた自分史教室は、まさに上記②と③が具現化されたもので、毎回「心温まる人間風景」の中に身を置いて幸せを実感している。この教室の基盤には「感謝の心」「笑顔」「おもいやり」「助け合い」「他の幸福を願う心」「不屈」がしっかり築かれており、学友それぞれが、歴史あるそれぞれの人生を肯定し応援している。そしてその上で、認め合い・励まし合い・高め合う学びの心が熱く躍動している。

「人生の午後」という言葉を原田先生はよくお使いになるが、自分史教室には、「人生の午後」までに蓄えた膨大なエネルギーを糧にして、初心や苦しい時を忘れることなく、これからの人生を、周りの人を大切にしながらさらにより良く心豊かに、しっかりと生きようとする朝の活気が満ちあふれている。

私も教室のある日には、自分史教室の皆さまの学びや生き方を手本にして、「人は皆、人生の中でたくさんのおかげがあって今日という日がある」（原田治子先生）ことにしみじみと思いを馳せ、故人となった父母・姉の恩、そして大恩人や親友や沢山の教え子達の愛を思い起こし、これからの人生の日々を「報恩感謝」と「見果てぬ夢への挑戦」そして足元からの「一日一善」の日々として新たに築いていこうという決意を確かなものにしていく。自分史教室の講師にさせて頂いたことに、心から御礼を申し上げたい。

《 「楽しいウォーキング・ジョギングの集い」 ご報告 》

担当 パソコン教室講師 望月 利一

11月7日（土）、都立舎人公園で開催された「楽しいウォーキング・ジョギングの集い」は、岡田理事長・望月学長はじめ、当日参加も含め、約20名の方が参加されました。天気も運動をするのにちょうど良い気候でした。

簡単なストレッチの後、ウォーキングの基本動作を確認し、一周約700メー

トルのコースを、ゆっくり歩きました。体が慣れてきたところで、スロージョギングを行いました。

途中から、ウォーキングのグループ、ジョギングのグループの二つのグループに分かれました。

ウォーキングのグループは、休み休み、途中で少しスロージョギングを入れながらコースを5～6周しました。

ジョギングのグループは、少ない人数ではありましたが、この日、サポーターを務めて下さった、陸上競技協会の磯田雅也さんと、元気に走りました。



終了後、また、このような機会をもてたらよいという声を耳にしています。「第2回」の集いが実現できたらよいと思っています。

～～ これから寒くなる時期にぴったりの温かいお料理をご紹介します ～～

料理教室講師 立川 禮子

ふわふわ卵とじ汁

材料(4人分) だし汁カップ2 玉ねぎ中1個 麩40g 卵2個

さとう小1 しょうゆ大3 みつば(又は万能ネギ)5・6本

- ① 玉ねぎは半分に切り薄い輪切り、みつばは3cm位に切る
- ② だし汁にさとう小1、しょうゆ大3を入れて玉ねぎを煮る
- ③ 麩を入れてかきまぜ、弱火にしてふたをする
- ④ 麩が汁をすって煮えたら味をみて、卵を溶いてまわし入れ、みつばを入れて軽くかためる

※ 食べる時、麩が熱いので、やけどしないように気を付けて下さい

◆◆◆◆◆ 11月の学園日誌 ◆◆◆◆◆

- | | | | |
|-----|-----------------------------|-----|-------------------|
| 4日 | 常任理事会・役員会
(学園祭・研修旅行 反省他) | 18日 | 広報部編集会議 |
| 11日 | 区・功労賞表彰式 | 20日 | 28年度年間日程申請(センターへ) |
| | | 26日 | シルバーだより 306号作成 |

※ 事務局だより ※

荒川区功労者表彰について：推薦団体として本年度ご推薦致しました講師 稲川君江先生・石塚美江子さん・佐藤ひでさん・金久保芳夫さんが「荒川区功労者」として11月11日に表彰式が行われました。おめでとうございます。

(事務所) TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691

ホームページ : <http://www.arakawa-silver.com>

室長・田原